2022年度　教員の自己点検・自己評価報告書

所属学部　学科	職位	氏　　名
教育学部 子ども発達学科	教授	伊藤 龍仁
最終学歴	学　位	専門分野
日本福祉大学大学院社会福祉学研究科修士課程修了	修士	社会的養護

Ⅰ　教育活動

○理念・目標・方針・計画（方法）

（理念）

「真に信頼して事を任せうる人格の育成」という本学の建学の精神、並びに「オンリーワンを、一人に、ひとつ」というブランド・コンセプトを具現化するために、子ども家庭福祉分野の専門性と経験を活かしながら、保育・児童福祉現場に求められる人材育成を念頭に教育活動にあたる。

（目標）

「真に信頼して事を任せうる人格の育成」という本学の建学の精神、並びに「オンリーワンを、一人に、ひとつ」というブランド・コンセプトを具現化するための教育活動に取り組むことを目標とする。今年度は、オンライン授業と対面授業を融合した保育者養成に関わる授業に力を入れて取り組む。

（方針）

2020年度以降に確立したオンライン授業を通した授業実践と、再開される対面授業を融合し、教育効果を高めた授業展開を図る」という方針の下で教育活動に取り組む。

（計画）

① 保育実習指導系科目は、対面での指導を基本としながら、適宜Google-ClassroomとMicrosoft-Teamsによるオンライン指導を併用して実施する。また、２年生の事前指導においてはサービス・ラーニング活動を取り入れた体験学習に取り組ませる。

② 専門演習は、対面指導に加えてGoogle-ClassroomとMicrosoft-Teamsによるオンライン指導を組み合わせながら実施する。専門演習１・Ⅱはフィールドワークとグループ指導、専門演習Ⅲ・Ⅳは前期から卒業論文作成に向けた課題に取り組ませたい。

③ 講義科目は、対面授業を中心としながらMicrosoft-Teamsによるリアルタイム動画配信とアウトプット・ノートの作成を提出課題とする形態の中に、小テスト並びにディスカッションを取り入れた授業を実施する。

○担当科目（前期・後期）

（前期）

社会福祉論、保育実習事前指導ⅠB、専門演習Ⅰ、専門演習Ⅲ

（後期）

社会的養護、子ども家庭福祉、保育実習指導ⅠB、保育実習Ⅲ事前事後指導、専門演習Ⅱ、専門演習Ⅳ、保育実習ⅠB、保育実習Ⅲ、卒業研究

○教育方法の実践

対面授業を中心としながらMicrosoft Teamsによる動画配信とGoogle Meetによるオンライン授業を組み合わせながら授業を実践した。また、ディスカッションやフィールドワーク、プレゼンテーションなどのアクティブ・ラーニングの手法を取り入れながら、双方向的・対話的授業実践を意

識して取り組んだ。講義系授業においてはアウトプット・ノートの作成を提出課題と小テストを実施した。

○作成した教科書・教材

オンデマンド用配信動画を多数作成した。また、毎回授業におけるスライド資料と補足資料、アウトプット・ノートの原紙等を作成して学生に開示した。

○自己評価

概ね計画通りの教育活動に取り組み、一定の教育成果につながった。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響が残る社会状況の中で、サービス・ラーニング等のフィールドワークに支障が残り、計画した時間数を取り組ませることができなかった。その影響から学生の実習に影響が残ったこともあり、次年度以降の課題が残った。

Ⅱ　研究活動

○研究課題

⑴. ファミリーホームの研究

⑵. 若年者の自死に関する研究

○目標・計画

（目標）

「オンリーワンを一人にひとつ」というブランド・コンセプトを具現化するために独自の研究活動に取り組む。研究課題それぞれの成果をまとめ、本学紀要並びに学会誌等への掲載を目指す。

（計画）

今年度は、フィールドワークの実施が困難であることを想定して文献的な調査を中心に取り組む。また、オンラインでの発表機会を生かして研究発表にも取り組みたい。

○2015 年 4 月から 2023 年 3 月の研究業績（特許等を含む）

（著書）

・丸岡利則・伊藤龍仁・大勝志津穂・鈴木恵三・尚璽華・孫 頴・呂 洋・野口泰司・西尾敦史・渡辺弥生・王亜婷・馬利中・劉衛東・金良泰・上條憲二（2022）愛知東邦大学地域創造研究所編著, 地域創造研究甍書（35）『少子高齢社会のヒューマンサービス』2-22, 唯学書房.

・伊藤龍仁・川名はつ子・佐賀豪・若狭一廣・前川知洋・栗元貴司・若狭佐和子（2021）社会的養護とファミリーホーム編集委員会編『ファミリーホーム開設運営マニュアル』, 創英社.

・浅沼裕治・天池洋介・荒井和樹・有尾正子・伊藤龍仁・岩田正人・大谷誠英・金本秀韓・小塚光夫・佐々木将芳・田中高久・谷村和秀・中島健一郎・中村明成・藤林清仁・松岡宏明・松木宏史・武藤敦士・山崎ちひろ・吉田祐一郎・吉野真弓・吉村美由紀・吉村譲（2020）喜多一憲監修, 堀場純矢編『みらい×子どもの福祉ブックス　子ども家庭福祉』109－127, みらい.

・浅沼裕治・荒川まゆ・伊藤龍仁・井上穂乃日・岩崎元彦・岩田正人・加藤潤・加藤智功・倉橋幸彦・小菅ゆみ・児玉あい・児玉俊郎・近藤日出夫・佐々木将芳・関貴教・隣谷正範・橋本喜予・橋本達昌・藤田哲也・藤林清仁・古田優佳・宮地菜穂子・武藤敦士・安田華子・吉田祐一郎・吉田幸恵（2020）喜多一憲監修, 堀場純矢編『みらい×子どもの福祉ブックス　社会的養護Ⅰ』10－28, みらい.

・安形元信・天池洋介・荒井和樹・池戸裕子・石垣儀郎・伊藤龍仁・岩田正人・小尾康友・加久保亮

平・加藤潤・加藤智功・葛谷潔昭・倉橋幸彦・小菅ゆみ・児玉あい・児玉俊郎・関貴教・谷村和秀・隣谷正範・長棟李奈・橋本達昌・早川悟司・藤田哲也・藤林清仁・堀江美希・堀場純矢・水野和代・武藤敦士・武藤佑太・安田華子・山本真知子・芳川龍郎・吉村美由紀・吉村譲（2019）
　喜多一憲監修，堀場純矢編『みらい×子どもの福祉ブックス　社会的養護Ⅱ』188-189，みらい.
・白井克尚・今津孝次郎・伊藤龍仁・堀篤実・柿原聖治・梶浦恭子・新實広記・矢内淑子（2020）サービス・ラーニング委員会編『「サービス・ラーニング」ハンドブック　第6版』，P17，愛知東邦大学教育学部子ども発達学科.
・白井克尚・今津孝次郎・伊藤龍仁・堀篤実・伊藤数馬・梶浦恭子・新實広記・橋村晴美（2019）サービス・ラーニング委員会編『「サービス・ラーニング」ハンドブック　第5版』，P17，愛知東邦大学教育学部子ども発達学科.
・今津孝次郎・西崎有多子・白井克尚・中島弘道・新實広記・伊藤龍仁・柿原聖治・伊藤数馬（2019）愛知東邦大学地域創造研究所編『地域創造研究業書No.30　教員と保育士の養成における「サービス・ラーニング」の実践研究』，73-74，唯学書房.
・浅沼裕治・天池洋介・荒井和樹・有尾正子・伊藤龍仁・岩田正人・大谷誠英・金本秀韓・小塚光夫・佐々木将芳・田中高久・谷村和秀・中島健一郎・中村明成・藤林清仁・松岡宏明・松木宏史・武藤敦士・山崎ちひろ・吉田祐一郎・吉野真弓・吉村美由紀・吉村譲（2017）喜多一憲監修，堀場純矢編『みらい×子どもの福祉ブックス　児童家庭福祉』106－123，みらい.
・浅沼裕治・荒川まゆ・伊藤龍仁・井上穂乃日・岩崎元彦・岩田正人・加藤潤・加藤智功・倉橋幸彦・小菅ゆみ・児玉あい・児玉俊郎・近藤日出夫・佐々木将芳・関貴教・隣谷正範・橋本喜予・橋本達昌・藤田哲也・藤林清仁・古田優佳・宮地菜穂子・武藤敦士・安田華子・吉田祐一郎・吉田幸恵（2017）喜多一憲監修，堀場純矢編『みらい×子どもの福祉ブックス　社会的養護』10－28，みらい.
・丹羽咲江・萬屋育子・伊藤龍仁・明石雅世・涌井規子・谷口由希子・多久島睦美・加藤久美子・賀屋哲男・竹村万知子・小島祥美・本岡恵・小島俊樹・幸伊知郎・安藤ふみ・田中弘美・荒井和樹・加藤正志・小池田忠・岡本祥浩・重原惇子・渡邊ゆりか・藤田榮史（2016）特定非営利法人子ども&まちネット編，藤田榮史監修『なごや子ども貧困白書』20－24，風媒社.
・藤園秀信・打保由佳・川田誉音・飯塚哲男・伊藤龍仁・楳原直美・大井智香子・加藤大輔・五味保教・杉浦真生・須藤昌寛・高橋洋介・谷口真由美・福嶋正人・福田洋一郎・藤森一浩・山口みほ・吉田祐一郎（2016）中部学院大学通信教育部監修，藤園秀彦・打保由佳・川田誉音編『社会福祉相談援助演習　ソーシャルワークの理論と実践をつなぐ』156ー162，みらい.
・今津幸次郎・新實広記・西崎有多子・柿原聖治・伊藤龍仁・白井克尚（2015）『「サービス・ラーニング」ハンドブック　第1版』愛知東邦大学教育学部子ども発達学科平成26年度「基礎演習」担当教員団編，愛知東邦大学教育学部子ども発達学科.（年度毎に新版発行）
（学術論文）
・伊藤龍仁（2022）「日本における「子ども虐待」とその家族的背景」（2022）伊藤龍仁，『少子高齢社会のヒューマンサービス』地域創造研究所蔵書(35)2-22,唯学書房.
・伊藤龍仁（2022）「ファミリーホームの限界と可能性を問うために―問題提起―」『社会的養護とファミリーホーム』（12）12-19，創英社.
・若狭一廣・伊藤龍仁・佐賀豪・前川和洋・川名はつ子(2021 予定)「緊急座談会　新型コロナウイルス禍でのファミリーホーム」『社会的養護とファミリーホーム』（11）49-57，創英社.
・伊藤龍仁（2018）「ファミリーホームの人材確保と育成について」『子どもと福祉』（11）26-29，明石出版.
・伊藤龍仁（2018）「新ビジョンよ何処へ行く」『社会的養護とファミリーホーム』（8）32-40，創英

社.

・浅井彰子・伊藤龍仁（2017）「乳幼児の言葉の発達と絵本の楽しみ～「親子で絵本を楽しむ会」の取り組みを通して～」『東邦学誌』（46－2），113－125，愛知東邦大学.

・伊藤龍仁（2016）「特別企画　ファミリーホームと地域小規模児童養護施設―どこがどう違うのかまとめにかえて―ファミリーホームとは何かを考えるために」『社会的養護とファミリーホーム』（7）118－121，福村出版.

・伊藤龍仁（2015）「家庭養護に関する政府定義の再考―里親制度の歴史を踏まえて―」『東邦学誌』（44-2）49-67，愛知東邦大学.

・伊藤龍仁（2015）「ファミリーホームと石井十次―その遺志と実践を受け継ぐために」『社会的養護とファミリーホーム』（6）128-133，福村出版.

・今津幸次郎・正岡元・大勝志津穂・照屋翔大・伊藤龍仁（2015）「スマートフォン等の利用に関する実態―愛知東邦大学1年生と東邦高校全生徒」『東邦学誌』（44-1）193-210，愛知東邦大学.

・今津幸次郎・新實広記・西崎有多子・柿原聖治・伊藤龍仁・白井克尚（2015）「教員と保育士の養成における「サービス・ラーニング」の試み」『東邦学誌』（44-1）211-231，愛知東邦大学.

（学会発表）

・伊藤龍仁（2022年9月6日）「ファミリーホームとは何か？」（動画）第16回ファミリーホーム全国研究大会オンデマンド特別配信.

・伊藤龍仁（2019年6月29日）「「積養護論」を振り返りながら子どもの養育と自立を考える」第48回『全国児童養護問題研究会全国大会（岐阜大会）（岐阜聖徳学園大学）』シンポジウム「子どもの最善の利益を実現する社会的養護」報告.

・伊藤龍仁（2019年2月28日）「日本の少子化・子どもの貧困・虐待問題」『少子高齢社会における日中の子どもの健康と福祉のこれからを考える』愛知東邦大学地域創造研究所・複旦大学人口研究所共催研究例会報告（中華人民共和国，上海複旦大学）.

・伊藤龍仁（2018年10月6日）「家庭養護における「公」と「私」の相互関係とバランスーファミリーホームの措置委託と措置解除に着目してー」日本福祉大学大学院博士課程論文構想発表会.

・伊藤龍仁（2016年2月27日）「ファミリーホームの自立支援計画」『2015（平成27）年度ファミリーホーム東海・北陸・静岡ブロック協議会研修会（愛知東邦大学）』実践報告.

・伊藤龍仁（2016年2月18日）「家庭養護寮の歴史的再評価―日本における小集団家庭的養護の歴史」『日本福祉大学大学院社会福祉理論史研究会2月定例会（日本福祉大学）』研究報告.

（特許）

（その他）

・「平成30年11月　仙台市立小学校2年生女子児童の死亡事案　調査報告書（答申）令和4年12月6日」（2022）仙台市いじめ問題専門委員会.

・伊藤龍仁（2022）「2022子どもアドボケイト専門講座　訪問前研修報告書　ファミリーホームとは」一般社団法人子どもアドボカシーセンターNAGOYA.

・伊藤龍仁（2019年3月23日）「里親制度の可能性を考えるーファミリーホームの実践をとおしてー」なくそう！子どもの貧困ネットワークあいち連続学習会（31）（名城大学ナゴヤドーム前キャンパス）.

○科学研究費補助金等への申請状況、交付状況（学内外）

○所属学会

・社会事業史学会
・東海社会学会
・日本福祉大学社会福祉学会
・日本社会福祉学会
・全国児童養護問題研究会
・日本ファミリーホーム協議会

○自己評価

研究計画⑴「ファミリーホームの研究」は、ファミリーホームと協議会組織への参与観察を継続しつつ、成果をまとめ、第16回ファミリーホーム全国研究大会における特別講座の動画として公開、並びに、一般社団法人子どもアドボカシーセンターNAGOYA の実施した「子どもアドボケイト専門講座」の研修報告書に成果を掲載することができた。次の課題は研究誌等に掲載することである。

研究計画⑵「若年者の自死に関する研究」の研修成果については、仙台市いじめ問題専門委員会調査報告祖（答申）に反映することができたが研究誌に掲載するまでには至っていない。

Ⅲ　大学運営

○目標・計画

（目標）

「真に信頼して事を任せうる人格の育成」という建学の精神及びブランド・コンセプトを具現化するため、与えられた職責を「真面目」に全うすることを大学運営についての目標とする。

（計画）

昨年度に続き、教育学部学部長補佐として学部長を補佐するとともに学部執行部として学部運営に携わる。また、幼小保課程部会長、教職支援センター副所長、教職支援センター運営委員としての職責を果たす。

○学内委員等

教職支援センター副センター長
幼小保課程部会長
教育学部学部長補佐

○自己評価

今年度の大学運営に関しては概ね目標を達成し職責を全うした。一方で、学部においては児童厚生員一級指導員養成課程の設置を実現することができた半面、学生募集状況が改善できなかったことが残念である。

Ⅳ　社会貢献

○目標・計画

（目標）

専門分野を生かした社会貢献活動に積極的に取り組むことにより、「真に信頼して事を任せうる人格の育成」を掲げる本学の社会的な認知・信用の向上に貢献することが目標である。

（計画）

①　名古屋市ファミリーホーム協議会代表・ファミリーホーム事業者として名古屋市の児童福祉事

業に貢献する。

② 第16回ファミリーホーム全国研究大会実行委員長として大会を企画・実施する。

③ 日進市子ども施策推進委員・子どもの権利擁護委員として日進市の子育て支援に貢献する。

④ 仙台市いじめ問題第三者調査委員会特別委員として実態解明と教育機関の対応を検証する。

⑤ 日本ファミリーホーム協議会「社会的養護とファミリーホーム」誌編集企画委員に取り組む。

⑥ 社会福祉法人「桜友会」評議員として法人並びに福祉施設の運営に協力する。

⑦ 名古屋市児童福祉・子育て支援事業講習会、瑞穂市子育て支援員講習会、愛知県児童厚生員研修会等の講師として社会貢献する。

○学会活動等

日本ファミリーホーム協議会の第 16 回ファミリーホーム全国研究大会の実行委員長として大会を主催した。

○地域連携・社会貢献等

・日本ファミリーホーム協議会機関誌編集委員会活動、名古屋市ファミリーホーム協議会、名古屋市のびのびサポート子育て支援事業（ファミリーサポートセンター事業）研修会講師、愛知県児童厚生員研修会講師、フォスタリング研修会講師、及び、社会福祉法人桜友会評議員としての地域・社会貢献を行った。

・新たに、名古屋市社会的養育推進計画会議に委員として参加した。

○自己評価

今年度の社会貢献活動は概ね計画通りに実施した。特に、大会実行委員長として取り組んだ「第16回ファミリーホーム全国研究大会」は、本学をオンライン主会場として実施して全国 200 名以上の参加を実現し、高い評価を受けた。

V　その他の特記事項（学外研究、受賞歴、国際学術交流、自己研鑽等）

特になし

VI　総括

今年度は、教育活動、大学運営、社会貢献については概ね目標を達成したといえる。研究活動についはコロナ禍における制限も多い中で一定の成果を実現している。今年度の課題を踏まえて次年度の計画を立案したい。

以　上